

## 1 国際政治学をどのように学ぶのか

国際問題が身近になってきた

日常的な関わり→世界と関わって生きている

例：我が国の食料自給率→40% 食糧自給率→27%

コメの輸入関税→490%

例：環境問題→紙の自給

間接的な関わり

ODA、自衛隊派遣

難民約2000万人→支援

携帯電話→各国から部品調達されている

なぜ国際政治学を学ぶのか？

1 グローバリゼーションは人々を幸せにするのか？

90年代からの言葉。以前は「国際化」

2 「9/11」以後の国際政治はどう変わったのか？

3 国際政治のルールを作るのは誰か？

国内政治との相違

ガイダンス1・2

現状認識3～6 (ジャーナリズムの仕事)

理論分析7～12 (国際政治学の仕事)

今日的課題13～16 (今後、取り組んで行かなくてはならない問題)

## 2 国際政治学の基本知識

なるべく多くの人々の考え、情報をキャッチする

客観的な分析→客観性とは何か？

価値自由 (value free) → 価値から自由

主観、好み、世界観 etc. から離れる

偏見を取り除く (これがなかなか難しい)

社会を比較する (2つ、3つと比較すると、よくわかる)

東京を知ろうと思えば、他都市と比較する必要がある

文化相対主義 (文化人類学からきた言葉)

多文化主義 (多文化共生)

メディアリテラシー (メディアから自由になる)

国際政治学と国際関係論

だいたい同じ。

国家間の政治 (外交) を研究する → 国際政治学

## 国際政治の定義

国際社会の秩序作り(政策決定)に参加しようとする努力、あるいは影響を及ぼそうとする努力

国際政治より幅が広い→国際関係論

アクター(行為主体)が、国家だけから様々に広がってきた

## 3 ポスト冷戦時代の国際政治

時代区分→通常、戦争で区切る

1989年12月「ポスト冷戦の時代」「マルタ会談」

→アクターが変わった。米が唯一の大国に

国連は第二次大戦後を引きずっている

## 特徴

資本主義市場経済システムの世界化(ソ連・東欧型社会主義の崩壊)

→グローバル化の加速

地域協力と地域統合の強化→EU など

国家を解体する民族のアイデンティティ→民族紛争(旧ユーゴなど)

民族は宗教を背負っている→文明の衝突